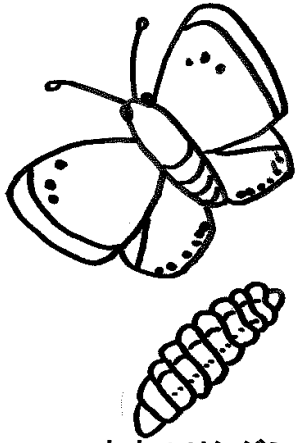
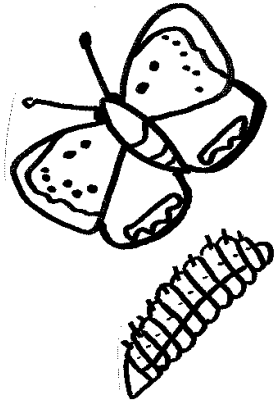
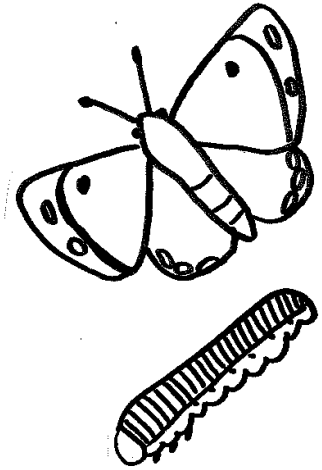


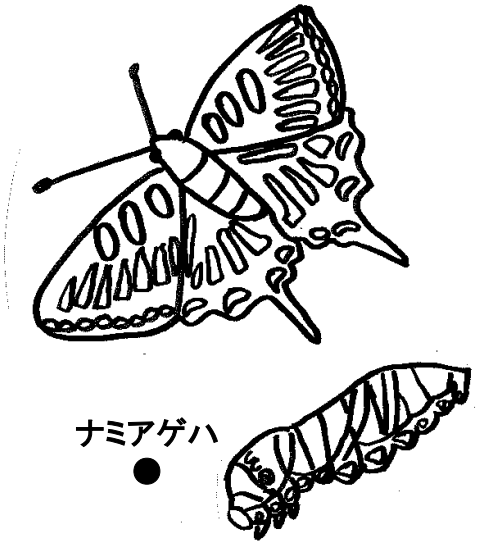
オオルリシジミ



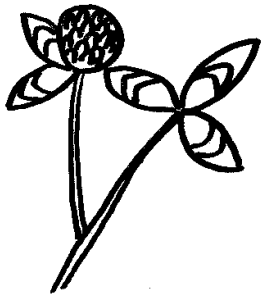
ベニシジミ



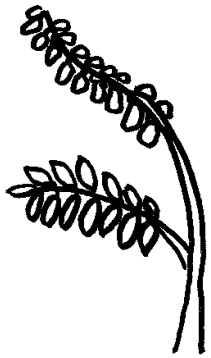
モンキチョウ



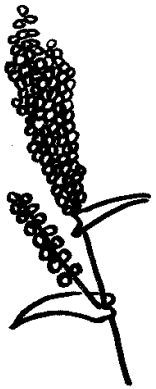
ナミアゲハ



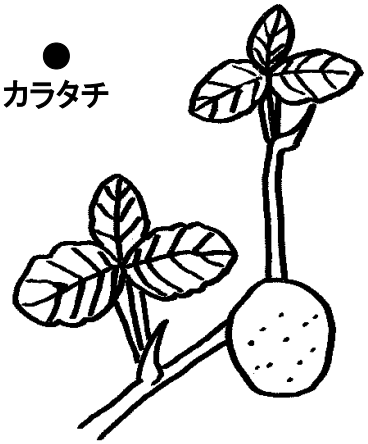
アカツメクサ



クララ



スイバ



カラタチ

安曇野で暮らすチョウの食草つなげゲーム

小学生3・4年生～向け

～遊び方～
チョウの幼虫が食べる植物を点でつないでみよう！
チョウの種類によって食べるものが違うよ(^^)
ぬり絵もできるよ✍
(ヒント・答えは図鑑シートを見てね！ ー番下にも書いてあるよ！)

～安曇野で暮らすチョウの食草つなげゲームについて～

チョウの幼虫には決まった種類の植物だけを食べるものが多くいます。
身近な種類でいうと「モンシロチョウ」はアブラナ科の植物を幼虫が食べます。
アブラナ科で私たち人間に関わりが深いものにはキャベツやダイコンがあり、しばしばモンシロチョウの幼虫が食べてしまうことに悩まされることもあります。
チョウが食べるこうした植物のことを「食草(しょくそう)」といいチョウが生きていくためにとても重要な役割を持っています。

現在チョウの暮らす環境は様々な問題を抱えています。
開発で自然環境そのものが失われることはもちろん、管理がされなくなり土地が荒れることも一部のチョウにとっては危機的な環境の変化を生んでいます。
環境の変化は食草の消失につながり、チョウが子孫を繋いでいくことも難しくさせてしまいます。

チョウが姿を消してしまうことも大問題ですが、チョウの幼虫は他の生き物の大事なエサになり成虫は植物の花粉を媒介する役目もあることから他の生き物への影響も与えることになります。
「チョウの食草つなげゲーム」というほんの一部ではありますが生き物同士の繋がりについて考えるきっかけになればとても嬉しいです。

答え：オオルリシジミ↔クララ　ベニシジミ↔スイバ　モンキチョウ↔アカツメクサ(同じマメ科のクララも食草)　ナミアゲハ↔カラタチ

■食草・食樹

■吸密植物

蝶イラスト：松本 剛
植物イラスト：箕輪 義隆
監修協力：浜 栄一、那須野 雅好
監修：(株)生態計画研究所
制作発行：国営アルプスあづみの公園

国営アルプスあづみの公園　図鑑シート

安曇野の蝶

「安曇野の蝶」は、国営アルプスあづみの公園とその周辺でよく見られるチョウを描いています。それぞれのチョウについては、翅(はね)の長さ、成虫の見られる時期、主な生息場所、色や形・くらし方の特徴を載せ、幼虫の時に食べる植物や成虫の時に蜜を吸う植物として代表的なものも紹介しています。観察する時の参考にして下さい。

■シジミチョウ科

ミズイロオナガシジミ
約30㎜／6～8月／
コナラやクヌギの
生える雑木林／
ミドリシジミの仲間。
夕方に活動するが、
早朝はさらに
活発に群飛する。

オナガシジミ
約30㎜／7～9月／
クルミの生える谷合や里地／
ミドリシジミの仲間。日没近くになると
クルミの枝や葉の周りを飛び回り、
その際、翅が銀色に輝く。

ベニシジミ
約30㎜／4～11月／
人家周辺の草地、河川敷／
最も身近なシジミチョウの
ひとつ。草むらを低く飛び、
ヒメジョオンなどの
蜜を吸う。

ミヤマシジミ
約30㎜／5～10月／
山麓の草原や川原／幼虫はマメ科の
コマツナギの葉を食べるが、絶えず
幼虫の出す蜜をねだってアリが
まとわりつく。

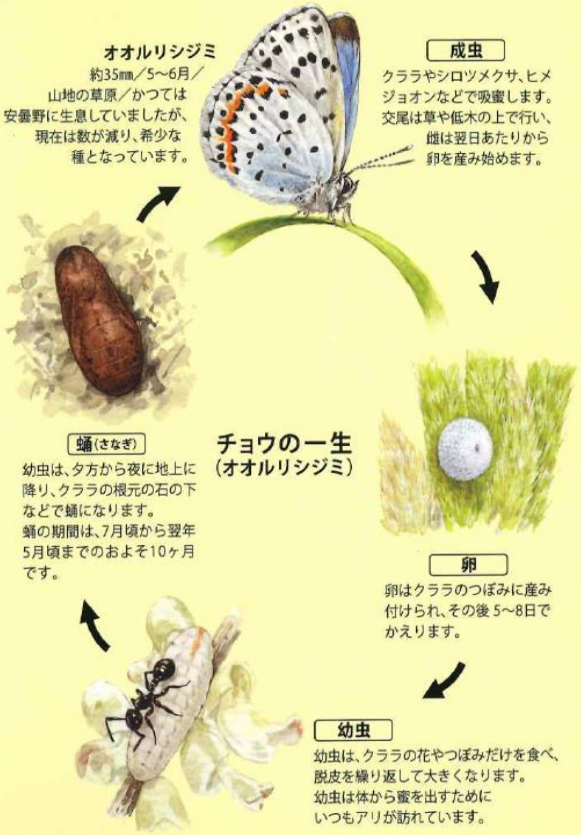
メスアカミドリシジミ
約35㎜／6～8月／山地の
小渓谷の落葉広葉樹林帯／
ミドリシジミの仲間。雄は
葉上でテリトリーをつくり、
侵入してきた昆虫を追い払う。

ヒメシジミ
約30㎜／6～8月／
山麓の草原や渓流沿いの草地／
幼虫は、40種近い植物を食草と
している。安曇野産の雄の
多くは翅の縁が黒くて太い。

ミドリシジミ
約35㎜／7～9月／ハンノキの生える湿地／
雄は緑に輝く。夕方に活動が活発になり
群れ飛ぶこともある。

■チョウと食草・環境との関係

皆さんは、チョウの姿をどんなところで目にしますか？
草花の咲く野原を思い浮かべる方が多いでしょうか？
もちろん、そのような開けた場所では、多くのチョウが見られますが、
高い山や雑木林、耕作地、よく見ると私たちが暮らしている街中でも観察することができます。チョウたちは、それぞれの種類で幼虫の時に食べる植物が決まっていて、これを「食草（しょくそう）」と呼びます。
例えば、かつて安曇野でよく見られたオオルリシジミは、クララの花やつぼみを食べるので、クララが食草です。このオオルリシジミを例に、卵→幼虫→さなぎ→成虫というチョウの一生を示します。



チョウは、それぞれの食草が生育している環境と密接に結びついて生活しています。そのため、環境の変化などで食草が生育できなくなると、幼虫の食べる餌がなくなり、姿をみることができなくなります。
このように、他の昆虫と比べると大きくて目立つチョウは、環境の質を判断するときの、一つの「ものさし」になるのです。チョウを観察する時には、彼らが暮らす周りの環境にも目を向けてみましょう。

■食草・食樹

■食草・食樹

シジミチョウ科

トラフシジミ
約35㎜／4～8月／
雑木林の林縁や山麓の里地／
イラストの春型は、夏型より
虎斑模様が鮮やか。

ヤマトシジミ
約25㎜／5～11月／人家周辺や路傍、公園／
市街地でも見られる最も身近な
シジミチョウ。生活空間が狭く、
低いところを飛ぶ。

ゴイシシジミ
約25㎜／6～9月／
ササの生える林内や林縁／
幼虫はササやタケにつく
アブラムシを食べる。

ウラギンシジミチョウ科

ウラギンシジミ
約40㎜／6～12月／人家周辺や林縁／
飛行中は翅裏が白銀色に輝く。安曇野でも
最近は増えている。

セセリチョウ科

ミヤマセセリ
約30㎜／4～6月／雑木林の林縁／
春に出現するチョウらしく、
太陽に向けて翅を広げる。

ダイミョウセセリ
約35㎜／5～9月／雑木林の林縁や
周囲の草地／武士の着た裃（かみしも）に
似ていることが名の由来とも言われる。

イチモンジセセリ
約20㎜／5～11月／人家周辺～山地／
最も身近なセセリチョウ。
安曇野は寒いので、幼虫は冬を越せない。

テングチョウ科

テングチョウ
約45㎜／3～11月／
雑木林の林縁／頭部が突き
出ているので天狗の名がつく。
6月一斉に羽化し、2～3日で
一斉に分散する。

シロチョウ科

ツマキチョウ
約45㎜／4～6月／人家周辺や川原／
雄は前翅の先に黄色い斑紋をもつ。
後翅裏の唐草模様の
保護色は見事。

モンキチョウ
約40～50㎜／3～12月／
人家周辺や、路傍、公園、水田などの草地／
公園内で最も普通のチョウ。
雄は黄色、雌は白色型が
多く、黄色型もいる。

キチョウ
約35㎜／4～11月／人家周辺や林縁／
シロチョウの仲間。秋になるほど
数が多くなり、成虫で冬を越す。

モンシロチョウ
約50㎜／3～11月／
農耕地を中心とした明るく開けた場所／
幼虫はキャベツやアブラナの葉を食べる。
よく似た種にスジグロ
シロチョウがいる。

ジャノメチョウ科

クロヒカゲ
約50～60㎜／5～10月／
ササの生える林内や林道／
日本で最も暗い環境を好むチョウ。
樹液や獣の糞に集まり、
花を訪れることは稀。

ヤマキマダラヒカゲ
約50～60㎜／5～9月／
ササの生える林内や林道／人の汗の臭いに敏感で、
人体やリュックサックに集まる。
よく似た種にサトキマダラ
ヒカゲがいる。

ジャノメチョウ
約55～70㎜／6～10月／
ススキの生える草原／公園では普通種。
卵を地面に産み落とす
習性がある。

ヒメウラナミジャノメ
約35～40㎜／5～10月／
人家周辺や、水田などの草地／
ジャノメチョウの仲間の中でも、
「蛇の目」模様の数が多い種のひとつ。

タテハチョウ科

コヒオドシ
約35～45㎜／4～8月／渓谷の明るい草地、
7月以降は高山帯／高山チョウの一種。渓谷で
羽化し、その後高山へ移動する。
飛び方はきわめて速い。

コムラサキ
約60㎜／6～9月／
ヤナギの生える河川周辺／
雄は翅の角度によって紫色に強く輝く。
温暖化の影響か公園内でも
年2回発生が見られる。

ミドリヒョウモン
約60㎜／6～10月／
雑木林や山地の林縁／
最も身近なヒョウモンチョウ。
秋には平地を訪れスミレの
すぐ近くの枯れ葉などに
産卵していく。

サカハチチョウ
約40㎜／4～9月／
山間の渓流沿いや路上周辺／
「逆八の字」の斑紋が名の由来。
春型（イラスト）と夏型とでは
色彩が大きく異なる。

オオウラギンスジヒョウモン
約65～70㎜／6～10月／雑木林や山地の林縁／
大型のヒョウモンチョウ。
翅裏に銀色の帯があることが名の由来。

ツマグロヒョウモン
約60～70㎜／5～11月／人家周辺や
山地の草原など／暖地のチョウであるが、
近年、安曇野周辺でも幼虫の越冬が
断続的に確認されている。

スミナガシ
約55㎜／5～9月／山地の林縁や渓谷／
成虫はアルコール成分が大好き。
赤いストロー状の口で樹液や
腐った果実・獣の糞をよく吸汁する。

名前／前翅の幅（㎜）／成虫の見られる時期（月）／主な生息場所／生態・形態の特徴

タテハチョウ科

ゴマダラチョウ
約60～70㎜／6～9月／
山麓の里地や低地の屋敷林など／
安曇野では、屋敷林や墓地
に生えるエノキで発生。
上空を滑るように舞い、
白と黒のツートン
カラーが目立つ。

クジャクチョウ
約55㎜／3～10月／耕作地の周辺部や
山地の雑木林の林縁／
クジャクの羽を思わせる
目玉模様が特徴。

アサマイチモンジ
約65㎜／5～9月／
雑木林や山地の林縁／
黒褐色の地に一本の白帯が
よく目立つ。藪や茂みの上を滑る
ように舞い続ける。

ルリタテハ
約60～70㎜／3～11月／
雑木林や山地の林縁／翅表を縁取る
鮮やかな瑠璃色の帯が特徴。
成虫で冬を越す。

ホシミスジ
約50～60㎜／6～9月／
人家や公園の生垣／
後翅裏の付け根に黒いホシ（点）の集まりがある。
コデマリやユキヤナギの植栽により
低地でも分布を広げている。

コミスジ
約40～50㎜／5～9月／
人家周辺や雑木林の林縁／最も身近な
タテハチョウのひとつ。名の由来は
三条（ミスジ）の
帯を持つから。

ヒオドシチョウ
約65㎜／3～9月／
雑木林や山地の林縁／翅の配色を
緋緘（ひおどし）の鎧に見立てた。
幼虫は食樹（エノキ）の上で集団をつくって生活する。

タテハチョウ科

キタテハ
約55～60㎜／3～11月／
人家周辺や川原の草地／
淡黄褐色の夏型に対し、
イラストの秋型は赤味を
帯びている。藪や茂み
の上を低く飛ぶ。

アカタテハ
約60㎜／4～11月／
雑木林や山地の林縁／
幼虫は、食草の葉を二つ折りに
綴った巣を作るので発見は容易。
よく似た種にヒメアカタテハがいる。

マダラチョウ科

アサギマダラ
約100㎜／5～10月／
渓谷～高原／
1000キロを超える渡りをする。
名のアサギは
「浅葱色（薄い青色）」の意。

アゲハチョウ科

ウスバシロチョウ
約50～70㎜／5～6月／
雑木林や山地の林縁／
鱗粉（りんぷん）の少ない半透明な
翅でゆったりと飛ぶ。

ヒメギフチョウ
約60㎜／4～5月／
明るい空間のある雑木林／
黒と黄色のだんだら模様も、
ひとたび枯野に止まると見事な
保護色となる。

アゲハチョウ科

ナミアゲハ
約80～110㎜／4～10月／
人家の周り／
身近なアゲハチョウのひとつ。
カラタチなどの樹上の同じコース
を飛び回る「蝶道」を持つ。

キアゲハ
約80～120㎜／4～10月／
水田の周辺～高山／
低地から高山まで姿を見ることが
でき、山の頂では占有（なわばり）
行動も見られる。

オナガアゲハ
約80～120㎜／5～9月／
低山の谷筋や里山の人家の周り／
安曇野周辺では、食樹の
コクサギを垣根に用いたため、
平地にも多かった。

ミヤマカラスアゲハ
約90～130㎜／4～9月／
山間の渓谷沿い／
翅表の青緑帯が特徴。
雄は湿地に群れて水を吸う。
キハダが生えていれば、平坦地
でも雌が飛来して産卵する。